

事業名

豊かな心を育む安全で美しいまちづくり

目標

子どもも大人も生き生きできる地域活動の創造

1. 取組の視点

校区には、阪奈道路・第二阪奈道路が通り、危険箇所が多く、不審者対応も含め、安全指導や見守り活動がPTA・育友会、青色パトロール・地域のボランティア団体などで熱心に行われており、各校園でPTAと連携した清掃活動や図書室の環境整備など活発に行われています。

また、各校園では確かな学力をつけ、豊かな心を育む取組として、本の読み聞かせやいちご・米の栽培、キャリア教育の講師等に地域人材を活用した取組も進められています。

これらの事業を発展させながら、一層地域と密着し、子どもも大人もより生き生きと活動できる「豊かな心を育み安全で美しいまちづくり」の取組を推進していきます。

2. 取組の概要

今年度は、コーディネーターの役割を明確化し、事務局の部屋を設置し事務局の活動をしやすくするとともに、事務局と学校コーディネーターの会議を定期的に関くなど、組織づくりを進めました。また、富雄南中学校区安全マップをもとに、コーディネーター安全講習会等の研修を行うなど、地域教育協議会の活性化を図りました。



本校区では、幼稚園の「ハローキッズイングリッシュ」、小学校の「ハローイングリッシュ」とあわせ、国際理解・英語のコミュニケーション力育成を目指し、外国人留学生による「英語アシスタント事業」を実施しています。アシスタントに

は、中学校の英語授業補助や幼稚園・小学校の行事補助をしてもらっています。

地域ボランティアを活用した取組としては、教育支援・体験学習については、栽培活動や読み聞かせ等に多くの方にきていただき、地域の人々から学んだり、地域の方々とのふれあいをとおして地域のことを教えてもらい、子どもたちにとってもボランティアの方々にとっても生き生きと活動できる貴重な機会になったと考えています。



環境整備活動においては、PTAや自治会・指導協議会等の地域団体と連携した「クリーン作戦・花いっぱい運動」の取組も計画していましたが、今年度は台風等の影響により残念ながら中止したり、規模を縮小した活動もあります。

広報活動として「協議会だより」の発行やホームページの開設なども行いました。

3. 成果と課題

今年、事務局体制の地盤ができ、コーディネーターの役割・仕事内容が明確になってきたことで、協議会の組織が確立し、活動の活性化が図られました。来年度は、地域の特色や課題をより踏まえながら、「防災教育」「キャリア教育」等の充実を図っていくことが課題と考えています。



事業名

みんなが一番星！夢と誇りの持てる富南創造

目標

確かな学力と豊かな心を育む生徒主体の教育活動の創造

1. 取組の視点

本校は家庭の教育力も高く、授業や部活動にまじめに取り組み、挨拶もしっかりできる礼儀正しい生徒が多いです。しかし、自主的・意欲的に活動するまでには至っておらず、幼児期から遊び等の経験不足からか、人間関係づくりの苦手な生徒やたくましさに欠ける生徒もいます。

これらのことから、「自分たちで力を合わせて学校行事を創り上げ、達成感を感じる中で自信を持ち、一人一人が輝いてくれること。」「体験学習を充実させ、さまざまな人とのふれあいの機会を多くすることによりコミュニケーション力とたくましさを身につけること。」「挨拶など社会に出たときに必要なマナーや規範意識を身につけること。」を取組の視点としました。

2. 取組の概要

【一人一人が輝く学校行事の創造】

文化発表会・合唱コンクールは、実行委員の生徒が運営し、保護者・地域の方も招いて奈良県文化会館で開催しました。大きな舞台に立って



3年生の学年合唱

歌うという経験は、中学生活の大きな思い出となったことと思います。ことに、精一杯歌う3年の学年合唱は圧巻で、保護者も感動されていました。

体育大会は、競技・応援ともに全員が力をあわせて取組みました。何よりも全員が最後まで気を緩めることなく一生懸命競技する姿が印象的な体育大会となりました。

【生徒が主体的になって活動する生徒会活動】

生徒会は、挨拶運動に加え、以前から校内ボラ

ンティア清掃を実施していましたが、今年は年間6回のボランティア清掃を行い地域へのお礼の意味も込め、学校周辺の溝掃除や落ち葉拾いなどを行いました。そのほか、吹奏楽部が高齢者施設の慰問演奏等も行いました



また、各学年集会においては、全員が発表する機会をつくるなど、学級総務を中心にコミュニケーション力をつける取組を行っています。

【地域との連携・体験学習の取組】

地域の人材活用は、主にキャリア教育で行いました。1年では福祉体験、2年ではマナー講習会の講師にきていただき、地域の方から学ぶ機会としました。



マナー講習会

校区内幼小中学校の連携としては、小学校への教員の学校訪問、生徒会が主催した小学生の体験入学等を行いました。

3. 成果と課題

今年度は、文化発表会・体育大会などで生徒たちが生き生きと活動できたことや、さまざまな体験学習が行え、環境美化活動など、PTA・地域と連携した取組が進んだことが成果です。

来年は、生徒会を中心にして、より生徒が主体的に活動していくようにしていくことと、防災教育にも取り組んでいくことが大切であると考えます。

事業名

いきいきワクワク富南タイム

目 標

『人とふれあい地域とつながる』をコンセプトに地域環境を生かした体験重視と、読書を通じた情操力の向上を目指す。

1. 取組の視点

本校は、これまで地域の環境を生かした学習を実施することにより、豊かな人間性の育成を図ってきました。自分たちが生活する地域社会と積極的に関わり、体験活動を通して学ぶ楽しさを味わい地域を愛する心やよりよい生き方・考え方を身につけようと考えてきました。また、児童が心躍らせる学習の場として読書活動を設定しました。「読書活動」に外部ボランティアの支援を得るよう継続してきたここ数年の実践は、地域の人と児童のふれあいを高め、地域と学校の繋がりを強くする大切な取り組みだと考えました。また、地域の方とのふれあいを大切にした取組を大切に進めてきました。

2. 取組の概要

豊かな自然と地域の産業を児童が理解するためチャレンジタイム(体験学習)を設定しました。自ら体験することで地域を大切に思う人々の気持ちを知り、自分の住む町を大切にする気持ちを持たせたいと考えました。



3年生はイチゴ作りに取り組みました。4年生は枝豆作りに取り組みました。5年生は米作りに取り組みました。収穫の喜びを感じる学習となり

ました。1年生は昔遊びを、2年生はグランドゴルフを地域の万年青年クラブの方から教えていただき楽しみました。経験豊かなお年寄りから学ぶ児童の表情も、教えてくださる方の表情も輝いていて素敵な学びの時間となりました。6年生はアートデーでの作品を本校教育週間で授業公開しました。また、新しい本を購入し図書の補充を図りました。ファンタジータイムと名付け、毎週木曜日に行なう保護者ボランティアの本の読み聞かせと、学期ごとに行なう「野の花ぶんこ」の読み聞かせは児童に本の楽しさを実感させる重要な活動になっています。



3. 成果と課題

地域環境を生かした教育活動や地域の人々とのふれあいを重視した体験的な学習を通して、自分が住む町への関心を深め、地域に生きている意識を持たせることが出来ました。また、継続的な読み聞かせ会は、本の楽しさを実感させ、読書量の増加に繋がりました。そして、感性や知的好奇心等の豊かな心を育てられました。

地域に根ざした学習活動を実施することで児童が成長し、保護者や地域の方々の学校に対する願いを知ることが出来ました。また、地域の方の本校教育についての理解を深めることができたと感じました。

事業名

“共に生きる” 希望あふれる碓っ子

目 標

“共生” できる人間性豊かな児童を育むために、学校教育環境の充実を図る。

1. 取組の視点

今年度は、「ボランティア」の受入体制の確立を視点として、学校教育環境とりわけ学校図書館の充実に取り組みました。

2. 取組の概要

本校規模（33学級）では文部科学省が定める学校図書館図書標準は13,120冊とされており、約8,000冊が不足しているという図書室の現状でした。学校図書館環境の充実を図り、本事業実施により期待する子ども像「自ら本を手にする子」「本物に触れた感動を大切に子」を実現し、“共生”できる人間性豊かな児童を育むために、地域の方々の支援を受けながら図書室へのコンピュータ導入に取り組みました。



昨年度から来校いただいている「図書ボランティア」の方々が、データ入力・バーコードラベル貼付・貸出カード作成・再度の配架等に最大限の「パーソンパワー」を発揮できるよう「ボランティア：4つの柱」※（①自主・②無償・③連帯・④継続）に留意しながら活動計画を具体化していきました。

「自主活動」※①の出発点として「図書ボランティア」の方々の来校時間は「9時半～11時半」「13時～15時」を基本とし、都合のつく日に作業※②に取り組んでいただくことにしました。

また、図書資料のデータベース化にあたって、コンピュータへの入力を得手とする方と、バーコードラベル貼付を主だった作業とする方々との

役割分担が自然発生的になされ、図書ボランティア同士の交流が深まりました。

一方、活動時間帯をフレキシブルとした作業体制を続けていくうちに、引継の重要性が浮上してきました。「図書ボランティア」同士の連絡ノート活用は、作業の継続依頼・次段階作業計画立案・参加人数調整等、作業円滑化に加えて事業取組への意欲継続※④に結び付き、「連帯感」※③が生起することとなりました。



3. 成果と課題

休み時間に貸出カードを手にして図書室に急ぐ児童の姿に「コンピュータ操作は苦手だったけれど、教わりながらデータ入力できて嬉しかった。」と、ある図書ボランティアからの振り返りがありました。さらに、家庭での親子の会話の中に図書データベース化の進捗状況が取り上げられることもあったりしたが、これらは着実に人とのふれあいを深めている“共生”の具現化です。

“共生”できる豊かな人間性の育成は、本校保護者および地域の方々の強い願いです。その大きな手だてとなる読書活動推進のための図書室へのコンピュータ導入実現は、図書ボランティアの絶大なる支援が功を奏しました。

次年度以降も「ボランティア：4つの柱」に留意しながら受け入れ体制を充実させ、学校と地域との連携をさらに深めていきたいです。

事業名

ぐんぐん伸びよう笑顔いっぱいタイム

目標

園内の環境に関わったり、様々な人との運動遊びを通して、3歳児からの体づくりを推進すると共に、園児の活動や生活への意欲向上や主体的な態度の育成を目指す。

1. 取組の視点

本園では、家庭で体を動かして遊ぶ経験が少ない、車での送迎が目立つ等、幼児の体力低下に繋がる状況が見られ、疲れやすい、登園後、遊びや活動に取りかかりにくい等の幼児の姿がありました。そこで、幼児期にこそ、のびのびと体を動かして遊び、生きる力の基礎となる体力の構築や、主体的に活動に取り組もうとする意欲や態度の育成が必要であると考えました。本園は、3歳児からの保育を行い、子育て支援の充実も図っていることから、異年齢の友だちや親子での活動を通して、主体的に環境に関わったり、「体を動かすことが大好きな子ども」を育てたりすることで、幼児の体づくりを目指すことにしました。

2. 取組の概要

(1) 運動遊びの計画的な実施。

発達段階に応じた運動遊びの年間計画を立案し、購入したボール等の運動遊具を、遊びの場で十分活用できるようにしました。計画的に継続して実施したことで、友達と一緒に体を動かすこと



を楽しいと感じ、遊びや活動にも進んで取り組もうとする意欲が高まっています。また、在

園児や未就園児の親子での「ふれあい運動遊び」は、小学校体育館で思い切り体を動かし、楽しさや嬉しさを実感できる機会になりました。

(2) 食への関心を高める栽培活動。

食への関心を高めることが体づくりに繋がることから、地域のボランティアの協力を得て、畑

作りや野菜づくりをしました。収穫に期待をもって世話をしたり、夏野菜やサツマイモ等を園で調理して食したりしました。



幼児は、自分たちで育てた野菜を食べる嬉しさを感じ、保護者も送迎時に畑の様子

を気にするなど、親子で野菜栽培を楽しむ姿が見られました。保護者アンケートには、「苦手な野菜も喜んで食べたことを聞き嬉しく思った。」「持ち帰ったサツマイモを、一緒に調理した。」等の記述がありました。また、地域の方の通行時に畑が見えることから、園の栽培活動に関心をもってもらえています。



(3) 生活リズム定着に向けた取組。

大学教授を招き、『子どもの生活リズムと運動遊びはお友達関係』という演題で、保護者対象の講演会を実施しました。日常の子どもたちの生活を見直すきっかけになりました。

3. 成果と課題

- ・幼児の発達に沿った運動遊びを、年間を通して行ったり、新たな視点から取り組んだりしたことが、さらに幼児の基礎体力の構築や保護者の意識向上に繋がりました。

- ・年間を通して地域のボランティアの協力を得られたことで、幼児に地域の方とのふれあいを楽しむ姿が見られ、保護者も地域の教育力を知る良い機会となりました。

- ・体づくりのための継続的な取組の実施と、幼児が心を解放させて、一層いきいきと活動するための園内環境の見直しを図る必要があります。

事業名

碓っ子 ワクワクだいさくせん

目標

幼児が様々な人やものとふれあう中で、豊かな心ややる気を育み健康で安全に生活する力を身につける

1. 取組の視点

幼児が豊かな心をもち、生き生きとたくましく生活する力を育むために、身近な人々と交流する中で、様々な直接体験を通して、触れ合うことの楽しさや学びへの喜びにつなげるような取り組みを地域の方々や保護者の協力を得て実施しました。

2. 取組の概要

地域の人々との触れ合いを深めるために年間を通して、様々な年代の方と触れ合えるように計画しました。地域の高齢者の方から子どもの頃の遊びや生活の話聞き、お手玉の実演を見せてい



ただき、拍手と歓声をあげていました。戦争の話の時は、“少し難しいかな”と感じましたが、真剣に話される高齢者の体験談に幼児達

は静かに聞き入っていました。高齢者の方々が、幼児の話し方やふるまいをやさしく受け止め、温かいまなざしで認めていただいたことは豊かな経験となりました。

地域で活動されているお話の会の協力を得て、年間をとおして発達や季節にあった絵本の読み聞かせを実施し、絵本の貸し出しの時に、「この本、前に読んでもらって面白かった」とうれしそうに本を借りたり、集中して話を聞こうとする態度を育てたり、絵本に対して以前にも増して関心をもつようになりました。



未就園児との交流では、優しくかわわり、思いやりの姿が見られました。

地域の方を講師に招いて実施した書初めやお

茶会では、礼儀作法を学び、日本の伝統文化や行事を知り関心をもって楽しむことができました。



ゴロゴロさんの人形劇・親子の触れ合い会(ゆめつくり遊び屋さん)・リトミックで遊ぼう等は講師を招き実施し、幼児の生活経験を豊かにしたり、幼児と保護者が楽しいひと時を一緒に過ごす体験となりました。



また、絵本の部屋の充実を図り、保護者の協力を得て絵本の貸し出し等の活動内容を工夫しました。

また、保護者の方々により知ってもらい幼稚園教育の理解や子育ての支援につながるように掲示板に園での幼児の生活を写真で掲示、写真入りのパンフレットの作成、講師を招へいし「幼児期の食育について」の教育講演会開催などを実施、子育て支援、幼児理解や幼稚園教育への啓発に繋がりました。また、保育室前に人工芝を敷き、砂ぼこりの侵入を少しでも防ぐことができるよう園内環境整備をしました。

3. 成果と課題

地域の方々の協力を得て、いろいろな感動体験をし、様々な人との触れ合いの中で生きる力の基礎を培うことに繋がり、幼児が心を動かされるような直接体験をすることの大切さを再認識することができました。今後地域の方の教育力をさらに生かしながら、自主性、創造性を養い、豊かな心をもち、いきいきと生活する幼児を育てていきたいと考えています。